

刊夕日五月四



定価 一冊五銭 一月五拾銭 三月一拾五銭 半年二拾五銭 一年五拾銭
発行所 東京市平河町三丁目三番地 常盤舟日新聞社
電話 六三三〇
印刷所 東京市平河町三丁目三番地 印刷株式会社

映畫脚本 旅 台羽 (一)

一丁目 木津茂太郎

(タイトル) 阪東綱之丞
尾上 紫紅
(タイトル) 澤村 千吉
(タイトル) 嵐 梅女

芝居小屋の前、いろいろの幟がひらひらとひらめいて居る、綱之丞 紫紅、千吉、梅女などの役者の幟である

群衆
拍手木をうつ男
幕がひかれる
拍手をする見物たち

これは梅川忠兵衛の芝居である、床の義太夫のくさりがすむと花道のあげ幕からいよ／＼忠兵衛の出となる

見物盛んな拍手をおくつてゐる

棧敷
市藏が見てゐる、彼はこの町の物持の商家の息子で純心で眞面目で内氣である

舞臺、だんだん芝居は中心に近づいて来る、八右衛門と忠兵衛の問答になる

見物

(タイトル) 芝居小屋の前一人ごみ
おやすはやはり二階に見てゐるが彼女は東で、丁度西の棧敷の眞向ひに市藏がゐるのだ
うつくしいおやすの横顔 白いしなやかな手

市藏はふと何気なく舞臺から視線をうつして、おやすを見てびつくりする、何んといふうつくしい女かと思ふ

おやす

黒髪
市藏の眼は下の見物の頭を越しておやすの顔にとまつて動かない

おやす、何気なく西の棧敷をみるが、又すぐ舞臺の方をみて了ふ

舞臺

忠兵衛は封印を切る、バラ／＼と小判の金色が光る

あつと叫ぶ女共
梅川は蒼くなる

しーんとした見物
舞臺を裏から見せる道具方と狂言方が上手の書割のかげで話してゐる

(タイトル) おい／＼あれだぞと一人が云ふ
(タイトル)

どれたつてことよ
(タイトル) あの子だ
ほら西の棧敷さ
(タイトル) あいつが紫紅さんに
グツコン

しつ／＼と一人が云ふ
舞臺から見た見物席
市藏はおやすをなほも凝視してゐる

おやすはやつと西の舞臺に居る若い男はい、男だと思ひ初めた様子、今度はおやすもじつと見る

見物席
につこり笑ふ市藏
笑ひ返すおやす
見物席

一人の酔ひどれが何か大聲にどなつてゐる、附近の人たちが静かに／＼と制してゐる、少し離れた處で

(タイトル) うるせえッ!
(タイトル) おや何んでえ、誰だ、今うるせえッて云つた奴あな何がうるせえんだと酔ひどれ又人々がなだめる
(タイトル) うるせえからうるせえつてんだ
とその男も昂奮する、附近の人がなだめる

眼で話し合ふおやすと市藏
おやすは幕がしまると東の方へやつて来て市藏の傍へ座る

だん／＼二人話し合つてくる

(タイトル) 何と云ふのさ
(タイトル) 市……藏
(タイトル) ……おやすつて云ふのよ

(タイトル) 芝居ぢやありませんか
(タイトル) 千吉がいゝわね
市藏「千吉とは」ときく
(タイトル) ほら忠兵衛さ
(タイトル) おやすさん
おやす「え」と云つて「ほら／＼と笑ふ」

魚清食堂部改築御披露
階上新築食堂は皆々様を御待ちしてゐます
何卒御立寄り下さい
例年の通り

御見のお披露
最大 魚折詰……二十錢より
勉強 壽司折詰……二十錢より
本年の折箱は特に最新式の文化折箱を使用致します
多数は特に御相談に應じます

平河町二丁目
魚清食堂折詰部
電話六三三番

ヒナ人形
今年驚く程安價になりました
東京一流の人形師玉秀の特作品を陳列いたしました
ぜひ御覧下さい……
お待ちして居ります

二丁目
福 フク タヤ

サロンの
スィーツ
ケーキ
生クリーム

東京十軒店久月の
雛人形陳列
お子様方が一年中で一番楽しみな桃のお節句が近づきました江戸の。檜舞臺日本橋の十軒店で永年御愛顧を受けて居ります弊店は今年初めて御當地へ参りました。是非一度御覽の榮を得たく御待申して居ります。今後永く御引立を頂き度くと存じますから値段と品質とで他店のまねの出來ぬ勉強を致します。

平河町 (停車場前通り)
平マールケツト内
東京日本橋十軒店
久月本店直營
電話平局六〇三番

貸切の●●●
御用命は?
獅子吼(四四九)ノ勢デ
眞先ニ……(マツサキ)
三九ニタクシーへ!!!

花環
花籠
蓮華
造花
新らしく安い
霊柩自動車御用

町川新町平
屋本橋
番三六一話電

講堂正面に

大額面

創立廿週年記念に 平女子同窓會寄贈

平第二小學校では来る十一日創立廿週年記念式を擧ぐる爲め同校出身者五千の結成たる平女子同窓會にては記念事業として講堂正面に宮城の大額面を寄贈する事となつたが是れが揮毫は同校出身にして現に東京成女高等女學校教諭たる石川節子女史の手に成り崇高な氣品に打たる大傑作である尙ほ是れも紀念として恩師の寫眞ブツクを作製し廣く會員に配布する由

澤渡 駒市成績

良馬所有者

石城郡澤渡村中寺の駒糶市は去月廿日より五日間催されたが出場頭數二百七十九頭總賣上額一萬一千五百六十六圓に達したが一頭平均四十一圓四十錢であると尙同市場にて優良馬所有者として選定されたのは左の如くである

- △牝馬(一等)箕輪村大竹嘉吉(二等)永戸小野萬助
- △牝馬(一等)澤渡村加藤彦右衛門
- △牝馬(一等)三坂小平(二等)澤渡若松善吉(三等)澤渡若松善吉

年度各級受持教諭は左の如くである

△新學年(一組)酒井英吉(二組)山口彌一郎(三組)武田美佐子(四組)管波キ子

△第二學年(一組)永島磯徳太(二組)土岐升(三組)鈴木應善(四組)森いさみ

△第三學年(一組)志村一作(二組)日野良太郎(三組)鈴木幸四郎(四組)佐々木クマ

△第四學年(一組)田中金三郎(二組)新妻熊夫(三組)穴井重喜(四組)皆川マサ

警女各級 擔任教諭

警城高等女學校に於ける本

花競ふ公園に 忠魂祭の催し

新らたなる英靈に 非常な盛儀を

石城郡町村長並に在郷軍人聯合分會主催の招魂祭は十日午前十時から花競ふ公園松ヶ岡忠魂碑前に戦傷死者

各遺族

をはじめ郡下各團體在平各學校生徒參列壯嚴に舉行せられる當日は郡内各神官及僧侶全部參列神佛兩式により讀經玉串奉奠等の儀の後遺族の焼香あり終つて劍道弓道の試合が演ぜらるゝが特に今年には日支事變に犠牲となつた

新なる 英靈あるので

福島聯隊區司令部並に若松聯隊よりも代理官列席且知事代理も列席の筈で遺族慰

學校長赤津千里 因に野木氏は八日午前十時四十二分平驛發にて赴任の途に着くと

祝賀の 總集會

平女子同窓會にては十日午

後零時半から第二校講堂に於て母校創立廿週年祝賀總會を開催、先づ物故せる恩師と會員の供養會を營み恩師のお話や唱歌遊戯等の餘興ある由

球算優勝 賞狀授與

平第二小學校に於ける第十回球算競技會は去る三月中旬行はれたが入賞者左の如くにて本日佐藤校長より夫々賞狀を授與された

- (尋常科第五學年)鹽澤美子 松本節恵 芹澤節子 新妻セイ(同五學年)橋本良子 堅田美咲子 酒井嘉代子 神山俊子(高等科第一學年)小泉ユキ
- 和子 藁谷定子

就學獎勵

本縣昭和六年度恩賜就學獎勵金の交付額中石城郡の割當額は千四百廿六圓六十五錢であるが各町村別左の如くである

- (平)一七四、九六(山田)一四、四五(上遠野)一九

六、一六(田人)一五九、二五(飯野)八七、一八(玉川)七五、六五(好間)六八、二六(箕輪)六、七四(川前)六三、五九(錦)一一二、一五六(入遠野)一三五、七四(小名濱)六二九六(警崎)一七七、三五(永戸)一四、四五(四倉)六六、九四

農會記念日に 各種の催しを

来る十一日は農會法を制定された日である爲め其日を農會記念日とし全縣下に講演會講習會を開く事になつたので石城郡農會でも當日は各種の催物を爲すべく寄

川前村長更撤

郡川前村長佐藤三郎氏は此程満期退職したので本月一日後任を改選した結果宇佐見今次氏が當選した

鮫南農校入學式

既報石城郡錦村江栗の鮫南中堅農民學校は四月一日より第一回の入學生を入學せしめ昨四日には入學式を舉行したが新入生は男生十二名、女生廿二名である

林野組合に 獎勵金交付

石城郡護組合聯合會は六年度の事業成績優良の故を以つて縣知事より金一封の獎勵金を交付される由

生徒身体検査

平第一小學校に於ける生徒の定期身体検査は昨日より開始されたが日割は左の如くである

- (四日)尋常科第二學年
- (五日)同第三學年(六日)同第四學年(七日)同第五學年(八日)同第六學年

(九日)高等科全部 産馬の副組長 石城郡産馬畜産組合副組長志賀松吉氏後任として當選せる入遠野村中野樋口幸右衛門氏を同會では縣へ申請中の處本日知事より認可の指令に接した

平町物價

品目 量目 價格

白米	一等一キロ	一六五
	二等一キロ	一五五
	三等一キロ	一四五
白麥	同	九〇
平麥	同	一二〇
味噌	一貫	五〇〇
醬油	一升	三五〇
清酒	同	一〇〇〇
木炭	箱一貫	一八〇〇
	箱一貫	一四〇〇
	箱一貫	一六〇〇
砂糖	箱一貫	一〇〇〇
	箱一貫	一〇〇〇
豚肉	並上	二〇〇〇
	並下	一八〇〇
牛肉	並上	二四〇〇
	並下	二二〇〇

博覽會便り

第二會館の美術館内には所狭まき迄努力の大作が夫々出陳されたが夫等の作品の間に高橋光春女史一門の生花盛花等が文字通り錦上更らに花を加へて居る情は見る者の眼を喜ばせて餘

りありといふべしだ 霞ヶ浦飛行場よりの甲式爆撃機は昨夕から第三會場に其の雄姿を現したが上海事變に勇戦した名残りを機體數ヶ所の彈痕に止どめ激闘を偲ばして居る

平町人事

△立町二 伊藤林之助氏七男亭

株式 百澤商店

第六期決算報告 貸借對照表

借方	金額
現金	四三、四四
振替預金	九三、三〇
當座預金	八三、三〇
得意先勘定	一〇、三三
商品勘定	一五、五三
所有物價證券	三、八五
諸貸付金勘定	五、八九
土地建物	一、四三
債權金勘定	一、二二
臨時建築費	一、五五
什器	一、二二
仕入先勘定	一、二二
仕入切手	一、二二
預り保証金	一、〇〇
時借入金	一、〇〇
貸方	金額
現金	一〇、〇〇
資本	一〇、〇〇
法定積立金	一、〇〇
諸積立金	一、〇〇
前期繰越金	一、〇〇
當期利益金	一、〇〇
合計	二二、〇〇

追而取締役及監査役任期満了ニ付改選ノ結果取締役ニ百澤易興、百澤才八郎、鈴木豊次、監査役ニ殿木松造小川福作何レモ再選重任ス

平町一ヶ年間の 手工的生産額

機械生産は絶無の姿

平町に於ける諸生産業中には機械的な工業品は殆んど絶無の姿で主に手工的製品のみに依る家内工業が多いが最近役場で調査した是等手工生産物の一ヶ年の生産額は左の如くである

- (指物)二二〇、七七〇圓
- (菓子類)一八一、八〇〇圓
- (履物類)五六、三九四圓
- (桶樽類)一八、三六〇圓
- (足袋類)一二、〇〇〇圓
- (双物類)五、四〇〇圓
- (傘類)四、四八〇圓

平第二校の 級長さん

平第二小學校に於ける本年度の各級正副級長は左の如く任命された

- △尋常科第三學年(一組)海津吉子 關原芳枝(二組)馬目静 櫻村多美(三組)原つね子 酒井良子(四組)淺野敬子 吉田貞子
- △尋常科第四學年(一組)根本ツネ子 小園井端美(二組)梶原フミ 關内義子(三組)葉山多賀子 大和田順子
- △尋常科第五學年(一組)近藤シヅ子 吉田愛子(二組)桐谷ツネ 石山小夜

父の遺骨を 抱へて磐炭へ

叔父を探しに

昨日午前二時頃平驛前を徘徊してゐる青年を舉動不審とみて平署員が取調べた結果山形縣西村山郡西五百川村大字太郎農安太郎長男鈴木福三(三〇)で先年未だ、一人の父が病没し泣く泣く野邊の送りをする村にたよる人のない同人は父の遺骨を抱へ磐城炭礦にて働いてゐる叔父をたよつて無一文にて行く途中と判明係官も同情し僅少の旅費を惠與して行かした

柔剣道の 平商選手

平商業學校に於ける本年度の柔道及剣道の選手は左の如く本日發表された

- | | |
|----------|-------|
| △柔道 | △剣道 |
| 佐藤 藤 | 外村 成 |
| 大木 吉 | 關場 成 |
| 森田 關 | 山田(定) |
| 遠藤 山田(定) | 原 中 |
| 名畑 麻 | |
| 栗原 田 | |
| 山田(正) | |

第一斜坑採炭終了

記念に庭球争覇戦

古河炭礦で開催

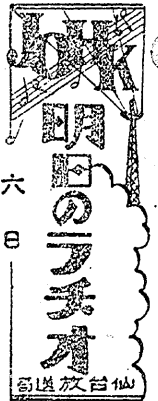
石城郡好間村古河炭礦では今回第一斜坑採炭終了を記念する爲め五月一日同炭礦庭球場に關東北庭球大會を開催し優勝カップの争覇戦を行うので各方面に参加を募つて居る

依然として 平署で 窃盜が最高 取扱つた去月中の犯罪統計を見ると依然として窃盜が最高で九十五件、檢舉人員廿四名夫れから詐欺の九件十一名横領が七件で十名、道路取締違反が六件で六名、傷害は六件四名、失火が三件で五名等が主なる物で總件數百五十七件檢舉百名である

職業紹介 増加

去月成績

平職業紹介所去月中の成績は求人が百卅五名、求職者は百八十八名で其の内就職を得たのは百三名前月より求人數四十九名、求職數九十二名の増加を示して居る各小學校卒業児童と博覽會婦人看守人等大口の斡旋があつた爲め増加を見たのである



明日の天気

今晚も明日も 南西の風曇り 一時晴れ

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間 管絃樂 東高ラヂオオーケストラ
- 後六、三〇 講演「ムツン」リーニと伊太利の新教育 制度」高橋泰
- 後七、三〇 講演「皇國の徴兵制度と徴兵検査に就て」仙臺聯隊區司令官陸軍歩兵大佐土居稻生
- 後八、〇〇 講演 花七夜 第五夜

明日の部

- 後八、三〇 浪花をどり 「踊るカレンダー」新町廓 藝妓連中
- 後九、三〇 奉天より 後九、四〇 全國ニュース 氣象通報 番組豫告
- 後九、一〇 料理献立「釀豆腐」朴澤松操學校
- 前一〇、三〇 家庭講座 「家計簿記」(八)大原信徳
- 後一〇、〇五 浪花節「祐天吉松」春日亭清鶴

帽子に 細い絹紐の白線

平商生徒の象徴

平商業學校にては本日午前八時より始業式舉行したが本年度から全校生徒に對し帽子に細い絹紐の白線を一本付ける事に改正來る十一日より實施すると

窓飾競技

新報社主催第二回店頭並にウキンドウ裝飾競技大會は四月七日より四日間の處參加商店の希望に依つて左記の如く變更した由

- △審査日、四月十五日より四日間△同委員會、四月廿日△發表期、同廿三日

自動車の違反

郡湯本町字日渡六十番地自動車運轉手戸田堅太郎(三六)及同郡入遠野村大字入遠野字後臺一番地助手折笠市太郎(三〇)の兩名は無免許なる助手市太郎に運轉せしめたるに依り自動車取締令違反及び同違反幫助罪として此程各科料十圓に處せられた

誠に便利な

平町南町 鳥肉商 鳥菊

品券

金額の多少に不拘調製致します

求職の部

- △風呂番 六十二才、高一修、給料面談(平町某)
- △雑夫 卅二才、高卒、給料面談(内郷村某)
- △女中 十九才、高一修、給料面談(豊間村某)
- △禮儀見習 廿才、高卒、仕着位(赤井村某)

求職の部

- 仕着小使(平某洋服店) 給仕 十六迄、高卒、月十圓(平町某學校)
- △小店員 十六位、高卒、仕着小使(東京某書店)
- △農夫 四十以下、委細面談(小川村某)

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉演
近藤 紫雲畫

〔第十九席〕

神影流の達人秋山要介

(19)

要介の代稽古

杉山五郎兵衛はガリリと木剣を投げ

杉「秋山先生、恐れ入りました拙者の及ぶ處ではござらぬ」

と慙う申した、要介木剣を引いて

要「これは御謙遜の御會釋奥ゆかしき事と存ずる」

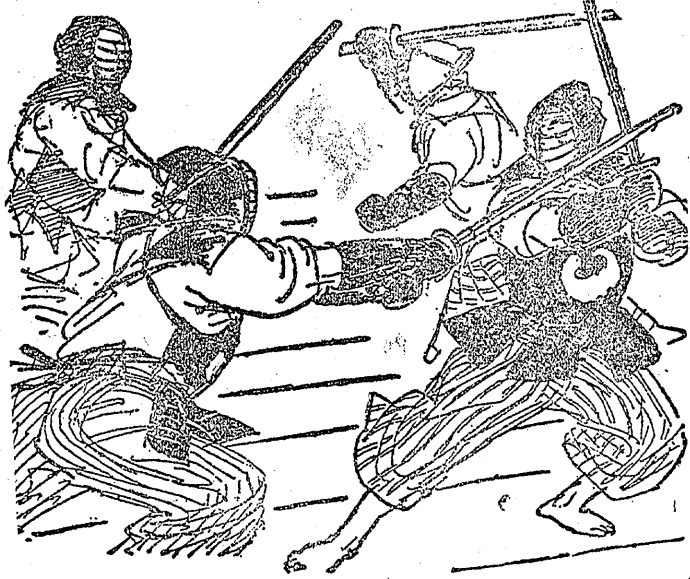
杉「イエ勝をお譲り申したわけではござらぬ、先生は當代の名人でござる、何卒拙者を御門下の端へお加へ下されるやう偏にお願ひ仕

る」

秋山はこれを聞いて感心した、一流の指南をして先生と云はれる者が自分の弟子になつて斯道を研究するとは、これは出来難い事

要「恐れ入つた、イヤ貴殿の大腹中には敬服いたした甚だ未熟ではござるが刀法の事は些か自信もござればお尋ねなされる事はお答へいたすであらう」

杉「それは有難さ仕合せ、あゝ先生は當代の奇傑でござると大層賞讃した」



して門人に教授いたして、ける事はなるまいか、近頃は大分門下も殖えて拙者一人にては稽古が届かぬ、それゆゑ貴公をお願ひ申す、妻女を伴れて當家へ参り門人の世話を下さらば誠

云はれた者が秋山の門人同様に、なり其人の爲に働く、是は秋山の腕に惚れた爲要介も杉山が来て以來道場は此の人に任して出稽古に参る、性來我儘な人として大名に奉公して扶持を貰うて縛られるは厭だ、それゆゑ月何度と決めて教に行き、中にも櫻田に上邸のあつた井伊家には親しく出入をしてゐる秋山に從いて稽古を受ける者の内で植松寅次郎といふ者は能く出来る、それゆゑ要介は一層氣を入れて教へて居た、或時植松が要介を自分の小屋に招んで馳

に忝ない」

杉「承知いたした、先生の御手傳ひを仕るでござるう」

と是から自分の道場を閉ぢて妻君を伴れ、秋山の許に同居して門人に稽古を附ける、これは出来難い事だ、今まで多くの門人に先生と

走いたして

寅「借先生、茲當分の間貴下から御指南を受ける事もなりませぬ」

要「それはどういふ譯だ、暇になつた事ではあるまい、それとも浪人するか」

寅「イヤそんな事ではござりませぬ、今度野州佐野天

明の領地を支配いたす事になりまして四五日内に立出いたします」

要「それは芽出度事だ、豫て井伊家には下野佐野に飼糧料がある」と聞いたが何萬石上るか」

寅「二萬石上ります」

要「その支配をいたすとあらば先づは大官のやうな者だ、定めし御加増もあつたであらう」

寅「五十石御加増がござりました」

要「それはいよゝ、芽出度野州の佐野は宜い所ださうだな」

寅「先づ下野では足利に宇都宮狭くともそれに續いては佐野機業家の多い故で人氣も面白うございます、名所には安蘇の沼佐野の亘理

これは佐野源左衛門常世が最明寺時頼に會つた所でございます、其他には唐澤山これは風景の住い所」

要「さうか拙者も佐野に参つて名所を見物いたしたいが件で行つてくれ」

寅「ハイ」

と云つて頭を掻いて苦い顔をした、要介はこれを見て

要「厭な顔をするな俺を伴れて行くは迷惑か」

寅「迷惑ではござりませぬが、先生には悪い癖がござりますから途中で間違ひが出来ませぬと」

要「俺にどのやうな癖がある、それを云へ」

寅「貴下はお酒の上が宜しくない、御酌耐なされると亂暴をなさる此が貴下の瑾で

梅毒 淋病 皮膚病 婦人病

熱病 傷寒 傷風 傷暑 傷寒 傷風 傷暑

門專 院醫科 院醫科

平南町 電話一〇七

木村外科醫院

平町五丁目橋際 電話三〇九

お客様本位の……

正雁時計

平一當盤屋時計店

好適の眼鏡

高久病院

院長 醫學士 高久 忠

副院長 新潟醫學士 赤羽 清

藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄

平町田町 電話五一三番

内科小兒科 外科花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科

●小兒下痢一切小兒腸胃散● 堀藥局 平町二丁目 電話三三六番

特製 ヒナ人形

ヒナ道具賣出し

日頃おなじみの御得意様方へ謝恩の爲め特賣致します、どうぞ御一覽の程を御願致します。

平三丁目 金太郎玩具店